学校だより　令和６年１０月３１日

高井戸東小学校

１１月号
No.６２１

URL　http://www.suginami-school.ed.jp/takaidohigashisyou/　TEL 03-3304-5711

多様性への取り組み

校長　馬場　章弘

今年度特別支援学級「5 組」が開設されたのを契機として、校内で多様性理解にかかわる教育を推進するための分掌(子供たちでいうと委員会活動でしょうか)を設置しました。その分掌の具体的な活動内容をご紹介したいと思います。

正直なところ多様性理解のためにどのような活動をすればよいのか教員にとっても初めての分野で戸惑うことも多々ありました。しかし、そのままでは何事も前にすすまないので「保護者向け」と「児童(授業)向け」の場面を二つに分けて考えることにしました。そして、子供たちに対する学びの目標を学年ごとに下記のように設定しました。

1 年：ひとりひとりがちがっていてあたりまえ
2 年：みんなが安心して過ごせる教室
3 年：得意なこと苦手なことは誰にでもある
4 年：一人一人を大切に
5 年：お互いすてき
6 年：誰もが生活しやすい学校

この目標は、教員が日頃の子供たちの様子から発達を考えながら設定したものです。

この設定に従って、授業の内容を現在考えている最中ですが、どの教科・活動とどのような内容で行うのかを、実際に行ってみて、それを学年で検討し合うという方法をとっています。例えば 1 年生では学級活動で、「自分たちの成長したところを探す」という活動をしました。4 年生では道徳の時間に『公正・公平』という価値観を指導するために、「誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平に接しようとする態度を育てる」ことを目標に授業を行いました。5 年生では「心の健康」という保健指導を養護教諭が 3 学期に、6 年生では「ともに育つ社会に向けて」という単元名で、保健の授業をこれから行う予定です。

多様なものの見方や考え方を理解していくのは子供たちばかりではありません。私たち教員も、そして保護者も今までの価値観の中で育ってきたので、意識して学ばないとなかなか理解できません。

保護者会に来て(オンラインの方もいらっしゃいますね)お話を聞いていただいた方にはいくつかそのようなお話をしてきました。9 月の保護者会では『こんな子、どう見る？』というタイトルで、昭和や平成そして令和になって教室の中がどのように変化しているのかをお話ししました。昭和のころには授業参観というと子供たちは背筋を伸ばし、ビシッと手を挙げてはきはきと先生の問いに答えていました。しかし令和の今は発達に偏りのある子、じっとしているのが苦手な子など、さまざまな子供たちがいます。文科省は発達に偏りのある子どもたちの割合は 8.8%という数字を挙げていますが、私たちの感覚としてはそれ以上と思っています。そしてそれらの子供たちに個別に対応しながらも、学習全体を進めていかなければなりません。さらに、「何が起きるかわからない時代」を生きていくためには、子供たちに「自分で考え解決していく力」を付けていかなければなりません。それらのことを考えながら、子供たちが互いに尊重し合い、自ら課題を見つけて解決していく授業を目指しています。

さまざまな子供たちがいる中で、一人一人の良さを生かし、安心・安全に学校生活が送れるよう、「多様性理解教育」を推進していきます。

小中連携の取り組みについて

小中連携担当　福田敦志

１「小中合同研修会」

7 月 12 日（金）に高井戸中・浜田山小の教員（総勢６５名）が高井戸東小に集まり、授業を参観し、テーマ別（生活指導・特別支援・教科等）に分かれて協議会を行いました。小中学校の教員が、お互いを知り、小学校から中学校への連携での課題や大切なことについて考える場となりました。「全体的に先生が楽しそうに授業をしている姿が印象的でした。」という感想もいただきました。

２「未来会議」

7 月 19 日（金）に浜田山小・高井戸東小の代表委員会の児童数名が高井戸中に出向き、高井戸中の生徒会と未来会議を行いました。今年度は「高中まつり」での「相談ブース」や「校内ツアー」等の企画を考え、チラシも各小学校の６年向けに配信しました。

※高井戸東小の学校公開と高井戸中の学校説明会の日程がかぶってしまい、申し訳ございませんでした。